

鯉淵学園同窓会報 第92号

平成30年12月15日

発行：鯉淵学園同窓会

〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町 5965

TEL:029-259-2811 FAX:029-259-6965

http://koibuchi.main.jp/

編集・印刷：同窓会事務局

〒121-0831 足立区舎人3-11-26 EPS

TEL 03-5839-3456代

FAX 03-5839-3460



# 鯉淵学園同窓会報



## 東京農業大学と包括連携協定締結

### 会長挨拶



同窓会長  
九石 裕

農村社会の活性化と若い優れた担い手の確保に全力を

日頃の同窓会活動に感謝

同窓会会員の皆様には日頃から同窓会活動に対してご支援・協力をいただき深く感謝申し上げます。昨年11月には第33回同窓会大会を開催し、沖繩代表など全国の多くの支部から参加をいただき盛大に実施することができました。これもひとえに同窓生の絆の強さと学園に対する母校愛の賜と理解しております。

学園教育環境の変化

ここ数年少子化の進展、大学進学率が50%を超える高学歴化などの影響を受けて、学園への入学者数も定員割れが続くなど厳しい状況にあります。学園では経費削減を進め、産学連携や農場収入向上などの経営改善を進めてまいりました。しかし、収入のキーポイントは学生確保です。

学生数を多くするために同窓会の皆様にも大いに尽力していただいております。

優れた学園教育の特徴

卒業してから学園教育を振り返ると、やはり一番の良さは学友との交流、切磋琢磨ではないでしょうか。全国の仲間と交流でき、自由に学びあう事のできる環境は他の大学には少ないと思います。そして最近産学連携を通して企業型大規模酪農経営や東京農業大学との連携強化で大学編入も容易となっており、実践力とアカデミックな学習環境が整備されています。

入学生募集への協力

私立大学の40%が定員割れの現状で、有名大学でも学生獲得競争に力を入れていきます。鯉淵学園の卒業生が活動する農村地域では特に若い担い手を必要としています。同窓会では今年の学生募集の協力の具体的方法として、卒業3年までの若い卒業生の皆さんにミニ広報誌「鯉淵自慢」の配布（主に出身高校）、現役の農協役員には入学対象者の推薦を依頼しました。ご協力いただいた方には感謝申し上げます。今後とも同窓生の皆様には引き続きご協力をお願いいたします。

## 学園長挨拶

### 学園改革の経過と

#### 当面する課題



学園長  
近藤 博彦

#### 1 学園改革の取り組み

##### (1) 学生の募集

平成21年度から学園は2年制に移行し、入学生は同窓会の募集への協力もあり、4年制時の50名前後から80名前後に回復しました。しかし、東日本大震災とその後の福島原発事故の影響もあり、平成24年の入学生は68名にとどまりました。

学園を存続するためには、学生を確保する必要があります。学生募集活動に加えて、学生の関心を重視した教育の展開として、授業内容の見直し、資格取得、就農・就職支援、農場実習の充実などに取り組みしてきました。しかし、少子化による18歳人口の減少、大学全入時代の到来、農業就業人口の減少などにより、年度によって増減はありましたが、入

学生の先細り傾向を克服できずに推移してきています。

##### (2) 自立経営の取り組み

行財政改革により、農林水産省の約1億円の補助金は減少を続け、期待できない状況となり、JAグループ全国連の約3千万円の寄付金も平成27年度から廃止されました。

補助金に依存しない経営を目指し、産業界、研究機関、行政等と産学官連携事業に取り組みできました。市町村・JAとの就農支援協定の締結、JAグループ茨城との外国人技能研修生の法定研修の実施、畜産農場の(有)瑞穂農場への一部貸与と園芸農場のJA全農いばらき(株)NCSへの一部貸与、東京農業大学との人材育成に係る包括連携協定の締結、イセ食品グループとの海外留学生の受け入れ事業の展開などがその例です。

##### (3) 経営資源の活用

補助金の削減等に伴い、教職員の給与や人員の削減、経費の抑制等の合理化を進めてきましたが、収入の減少が大きく、積立金の取り崩しや同窓会の寄付金で収支の均衡を図らざるを得ない状況が続いています。

学園の経営資源を生かすために直売所・レストラン・加工施設などの採算性の確立、学童の農業体験や社会人の農業研修事業の展開、園芸農場・畜産農場の運営方法の改善などに取り組みしています。しかし、財政

事情等から、施設投資、要員の育成確保、セールス活動などを十分に展開できずに撤退を余儀なくされた事業もあります。

#### 2 経営の危機と対応の方向

##### (1) 留学生入国できず

30年4月に計画した国際農業コースへのタイからの留学生30名が、入国要件の日本語能力の拡大解釈の適用を受けられず、入国できないこととなりました。厳しさが続いた協会・学園の経営は、受け入れ準備に要する経費増に見合う収入がなくなり、一気に危機的状況に直面することとなりました。

##### (2) 1年遅れの新スキームで受け入れ準備

日本に入国できずタイで待機している留学生に対応するため、法務大臣告示で認める日本語学校経由で一年遅れの受け入れ新スキームを構想し、準備を進めています。しかし、企業との産学連携による受け入れスキームは、留学生が資格外活動(アルバイト)を行う場合などにおいて、入管法、労働基準法等の制約があり、様々な課題に直面しております。

##### (3) 理事会で対応策を検討

こうしたことから、理事会で今後の学園経営を中長期的に展望した対応策を検討しており、当面、協会・学園の経営を継続するために、銀行融資の拡大や土地の活用等により、

必要な資金を調達することになっています。

また、資金の調達とともに事業・組織の合理化等により財政の健全化を進め、しかるべき学校法人等に打診し、経営参画や協同事業等も検討することとしています。また、こうしたことを進めるため、所管する茨城県や農民教育協会の設立・運営に関係したJAグループ全国連等に状況を説明し、支援と協力を要請することも検討しています。



東京農業大学生受入れ授業の様子

学園の若きスタッフたち



講師  
平澤朋美 (東京農大卒)  
(静岡県出身)

平成23年の4月から勤務し、今年で8年目となります。食用作物、有機農業の講義と農業生産実習(有機農業)を担当しています。  
本学園の有機ほ場は平成14年に有機JAS認証を取得し、年間約30種類の野菜栽培を実践しています。



化学肥料や農業に頼らずにいかに上手に栽培するか、有機農業には、環境に優しい農業を実践するためのヒントがたくさん隠されていると思います。講義・実習を通して有機農業の魅力や農業の楽しさ、厳しさも体感してもらいたいと思っています。将来の農業者の育成に尽力していきます。



主事補 篠原由美 (70期卒)  
(茨城県出身)

昨年の3月に学園を卒業し、畜産農場に勤務して今年で2年目になります。

主に搾乳や給餌、人工授精など牛の飼養管理や農場実習の対応を行っています。

自分が未熟であることや、年齢が近いことで学生との接し方に悩むこともあります。学生の考え方がわかりやすい立場から、作業などの一つ一つを理解し、身につけていく手助けが少しでもできるようにしていきたいと思っています。

タネまきから食卓までの一貫教育を支えています



講師 勝山由美  
(女子栄養大学卒)  
(茨城県出身)

今年の4月より、食品栄養科の講師として勤務しています。人に教えることの難しさを日々感じながら仕事をしています。

現在、臨床栄養学の分野の講義を担当しています。糖尿病や高血圧など、病気と食事の関係や、予防のための食事、嚥下障害に対応した食事



主事 橋本恵理 (63期卒)  
(岩手県出身)

について、実習を交えながら教えています。  
学生は話を聞いても結びつかない様子ですが、校外学習や就職した後、少しでも役立つような講義をしていきたいと思っています。

鯉淵学園を卒業後、食品栄養科の助手として採用していただき、今年で9年目となりました。

調理実習や講義をはじめ、調理技術検定の実施や就職活動への取り組み等、学生が栄養士になる上で必要な知識と技術を得るための様々なサポートをしています。

子育てをしながらの仕事で大変なことありますが、学生から元気なパワーをもらいながら日々頑張っています。

また、卒業生が学園を訪ねてきてくれることが嬉しく、楽しみの一つでもあります。学園を懐かしく感じたら是非足を運んで近況報告を聞かせてください。

# 新入学生の抱負



アグリビジネス科  
園芸組合コース 1 年  
大西浩司  
(北海道出身)  
北海道室蘭清水丘高校卒

私が鯉淵学園に入学したきっかけは、進路で悩んでいた高校 3 年生の時、地元北海道で鯉淵学園出身の方から紹介があったことです。

地元からも遠く、気候も全く違うところでの生活に不安が大きかったです。専門的な農業の知識を身に付けたいと思い入学を決意しました。現在私は寮で生活していますが、1 部屋 2 人で過ごしているため、相手に迷惑をかけないようにと入学当初は苦労しました。徐々に慣れてきて今では楽しく生活することができています。

授業では基礎的なことから専門的なことまで幅広く勉強することができています。特に農業簿記・会計の勉強はこれからの農業でいかに帳簿への記録が大切であるかを理解した上で、専門的な会計の知識をしっかりと身につけたいと思います。これからも力を入れて頑張っていきたいと思います。

また、農場実習では果樹・露地野菜・施設野菜・有機露地野菜・水田などの中から選択して実習を行います。それぞれの特徴を理解し、体を使っての作業はともやりのんびり勉強になります。

鯉淵学園を卒業した後は北海道へ戻り、父親の後を継いでトマトの栽培をしたいと考えています。学園で学び得た知識を生かし、いずれば父親の作るトマトよりも美味しいトマトを作っていけたらと思っています。



アグリビジネス科  
畜産コース 1 年  
上野 星 (きらら)  
(沖縄県出身)  
沖縄県立中部農林高校卒

私の家は非農家ですが、曾祖母が趣味で養鶏と畑作を行っていました。休日はその手伝いをしていました。その時から農業に少し興味を持っていました。幼いときから犬好きなので私はトリマーの基礎資格が取れる地元の農業高校へ進学し、そこで養鶏を学びました。

実習では屠殺実習を行い、命の有

り難さについて教わるとともに、愛玩動物と経済動物・産業動物についての違いも理解しました。

高校卒業後は大学への進学を希望していましたが、叔母から鯉淵学園を紹介されました。鯉淵学園は広大な農場の他、瑞穂農場との連携により、先進的な畜産が学べることと、家畜人工授精師や受精卵体内移植師など、取得できる資格の多さに魅力を感じて鯉淵学園への入学を決めました。

親元を離れ、初めての寮生活は礼儀や人間関係などについて学ぶことが多く、戸惑うこともありますが、楽しく過ごしています。

将来の目標は畜産系を希望していますが、「農業高校・農業の専門学校の卒業生だ！」と胸を張って言えるような畜産のスペシャリストになりたいです。その夢に近づく第一歩だと信じ、現在は充実した学園生活を送っています。



学園銀杏並木 (内原十景)



食品栄養科  
岩間涼音  
(茨城県出身)  
水戸女子高等学校卒

私はもともと料理をすることが好きで栄養の分野に興味を持ち、鯉淵学園の学校見学会を機に入学を決意しました。

栄養士とは何か、どのような現場で働くのかを学びながら、鯉淵学園での生活を楽しんでいます。



食品栄養科  
中岡葉菜  
(香川県出身)  
香川県立  
農業経営高等学校卒

私が鯉淵学園に入学した理由は、特待制度があったからです。特待制度の条件として入寮することや、朝夕の学生食堂での特別実習があります。辛いこともありますが、栄養士としてのスキルが身につくと思います。

私は香川県から来たので不安も多いですが、何とかやっています。

学園の教育現場からの発信 研修・農場部門の取り組み



研修・農場  
グループリーダー  
講師 秋葉勝矢  
(46期卒)

日頃より本校へのご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。同窓生の皆様へ現在の農場部門、並びに研修部門のご報告をさせていただきます。

◎農場部門では・・・

作物・園芸農場ではNCSアグリサポート株式会社及びJA全農茨城県本部との共同事業契約に基づき、NCSが作物・園芸農場面積10.5haの内、約1.2haを使用して小松菜の周年栽培やネギ、生姜等の生産を行い、本校の実践的な教育実習農場として活用しています。

畜産農場では、有限会社瑞穂農場との業務提携により、産学連携モデルを構築して、収益改善と人材育成及び確保を目的とした取り組みを行っており、同時に学生の教育の場として活用しています。

◎研修部門では・・・  
本校独自の研修「チャレンジファ



東京農業大学生の農業総合実習

「ムスクール」のほかに、茨城県からの委託研修事業、幼稚園や小・中学校の農業体験学習、市民講座、国際研修等を行っております。  
また、東京農業大学との農業人材育成に係わる協定締結を基に、今回東京農大の学生154名の農業総合実習を実施いたしました。  
以上のように研修・農場部門では外部との連携を強化し、本科生の教育を基本として、様々な事業に取り組んでおります。

全国同窓生の活躍紹介 (敬称略)

全国厚生農業協同組合連合会の  
会長に就任



長野県諏訪郡富士見町  
雨宮 勇  
(23期卒)

長野県農業協同組合中央会会長の雨宮勇氏が、平成29年7月27日付けで全国厚生農業協同組合連合会会長に就任しました。任期は平成32年7月までです。

同氏は平成23年に長野県信州諏訪農業協同組合長に、平成28年からは長野県農業協同組合中央会長に就任しております。

第40回農協人文化賞受賞者紹介

今年度の受賞者17名の中で、鯉淵学園卒の2名の農協関係の方が受賞されました。  
営農事業部門で受賞



長野県伊那市  
牛山喜文  
(23期卒)

氏は、長野県上伊那農業協同組合代表理事専務理事として、新規就農者育成に力を注ぎ、農業インターン研修支援事業を立ち上げ、組合員の子弟、インターン、Uターン者の受け入れを行い、就農者の定着に貢献しました。

また、伊那市、JA、鯉淵学園で三者協定を締結し、学生の研修受け入れを行っています。

学園で培った協同組合精神を糧に、営農指導から始まる総合事業を基軸とした農協づくりをはじめ、自ら地域リーダーとして集落営農組織を立ち上げ法人化を進めて地域のモデルケースとなっています。

一般文化部門で受賞



広島県三次農業協同組合  
代表理事組合長  
新田 靖  
(20期卒)

氏は、昭和40年に広島県三次農協に入組以来、常に農家組合員・役員と共に一丸結束を信条として、卓越した先見性と行動力で農協運動を先導し、多くの成果を築き上げました。地域農業振興と農村社会の活性化に向けて、農家組合員と共に常に現場を見据えた「くらしづくり」「地域づくり」を使命とした農協運動は全国の模範となっています。

若い卒業生の職場紹介



アグリビジネス科  
川上あゆみ (70 期卒)

平成 28 年に鯉淵学園を卒業し、今年度から母校へ戻ってきました。慣れないことも多いですが、先生方にご指導頂きながら一日でも早く、一つでも多く作業を覚えていきたいと思っています。

また、自分自身も楽しい学園生活を送ることができました。先輩となる学生たちにも楽しい学園生活であったと言ってもらえるような環境と関係を創っていききたいです。



地域で耀き食と農に挑戦するリーダーたち (敬称略)

北の大地で  
新しい野菜栽培を目指す



北海道伊達市  
菅原俊和 (32 期卒)  
(伊達市農業委員会会長  
・北海道指導農業士)

地域の概況

伊達市は札幌市と函館市の中間に位置しています。

明治の初めに宮城県亘理町から移住した人達が開拓し、耕地面積が少ないため、野菜基幹経営の地域です。

経営の特徴

学園卒業後、長野県とアメリカで 2 年間農業研修し、レタスに魅せられました。就農後はレタスを基幹に野菜複合経営を行っています。

畑の利用頻度が高いので、地力増強に緑肥を導入し、減農薬・減化学肥料でエコファーマー認証を受けました。

販売は市場の他に、地元スーパー、道の駅、大手コンビニとの契約栽培で収入の安定化を図っています。また、ホームページ、ブログ、フェースブック等で情報発信しています。

農産加工・販売への挑戦

地元農産物の PR と高付加価値を目指し、農業者有志・異業種の仲間と加工組織「お伊達本舗」を立ち上げ、キムチ、塩こうじ、唐辛子を製造販売しています。

また、独自に通販サイトを立ち上げ、加工品や農産物のインターネット販売を行っています。



お伊達キムチ



香港向けホワイトアスパラガス

これからの課題と展望

異業種の仲間達と連携して飲食業への販売や香港向けのホワイトアスパラガスの輸出を開始し、生協組合員と連携して食育活動にも取り組んでいます。

担い手の高齢化と若い就農者不足の解決策として将来法人化を検討しています。鯉淵魂はいつの時代も変わらず、大きな励みや糧になっております。



レタス畑と有珠山

